

## 草津市のスポーツの推進に関する市民アンケート調査

### 1. 調査の概要

#### (1) 調査の目的

第2期草津市スポーツ振興計画の策定に向けて、市民のスポーツの実施状況や市のスポーツ行政に対する考え等に関する基礎的データの把握を目的として、市民、小・中学生、団体等を対象にアンケート調査を実施するものである。

#### (2) 調査の種類

##### ①市民アンケート

- ・調査対象：18歳以上の市民 3,000人
- ・調査方法：郵送による配布及び回収
- ・調査期間：令和2年7月10日～7月27日
- ・回答者数：1,074人
- ・回収率：36.0%（※宛先不明10件を除いて算出）

##### ②小・中学生アンケート

- ・調査対象：市内全小学校の5年生（700人程度）、中学校2年生（300人程度）
- ・調査方法：学校を通じて配布・回収
- ・調査期間：令和2年7月10日～7月27日
- ・回答数：小学校700件、中学校257件

##### ③スポーツ関係団体アンケート

- ・調査対象：市内のスポーツ関係団体等
- ・調査方法：調査票を送付（団体属性に応じた送付方法で対応）、郵送等により回収
- ・調査期間：令和2年7月10日～7月27日
- ・回答数：

	名称等	対象数	回答数
1	・競技団体	26団体	20団体
2	・小学校体育連盟、中学校体育連盟	20団体	18団体
3	・体育振興会連絡協議会	14団体	10団体
4	・スポーツ少年団	34団体※	19団体
5	・くさつ健・交クラブ	1団体	1団体
6	・スポーツ推進委員	56名	28名

※2団体は宛先不明で返送

※全てのアンケートは、7月31日到着分まで集計

## 2、調査結果の概要

### (1) 市民アンケート結果

#### 1 健康状況、運動・スポーツの実施状況について（問2～問19）

- ・ 9割以上が「健康である」と回答しているが、「運動不足」と考えている人が8割を占め、20～50歳代で運動不足傾向が高い。新型コロナウイルス感染症の影響で、4割が運動が減ったと回答。
- ・ 運動やスポーツで体を動かすことが好きな人は6割を超え、この1年間運動やスポーツを行った人も6割を超えており、特に20歳代、60～70歳代では7割前後と高い。ただし、今回調査では前回調査での「1日あたり30分以上」の記述を削除したため、前回調査と比較すると12.6ポイントと大幅に増加。
- ・ 具体的内容は、「ウォーキング」が7割近くと最も多く、「体操」、「トレーニング」と続き、手軽にできるスポーツが多い傾向にある。
- ・ 実際に運動やスポーツをしている人は、「週に1日以上」と定期的に運動している人が約7割と多く、特に50歳代以上で頻度が高い傾向にある。
- ・ スポーツを行っている理由として、「健康保持・増進」が8割近くを占め、「体力の向上」、「趣味・楽しみ」、「ストレス解消・気晴らし」が上位にきている。一方、運動・スポーツをしない理由はとして、4割以上が「仕事や家事で忙しい」ことをあげており、特に20～50歳代では5割を超える。

#### 2 子どもの外遊びの場について（問20～問22）

- ・ 子どもの外遊びの場については、大多数が必要と感じているものの、身近に外遊びの場が「少ない」と感じている人が6割近くいるが、前回調査からは9ポイント減少。
- ・ 具体的場所は、「公園」が8割、「小学校・幼稚園・保育園の園庭」、「道路・路地裏」が3割前後となっており、公園は子どもの貴重な遊び場になっていることがわかる。
- ・ 身近にあれば良い外遊びの場所としては、「子どもだけで安全に遊べる」、「保護者の目が行き届きやすい」、「家から徒歩で行ける」が上位を占め、安全性が重要視されていることがうかがえる。

#### 3 運動・スポーツ施設の利用について（問23～問28）

- ・ 過去1年で利用した公共スポーツ施設は、「矢橋帰帆島」、「ロクハ公園プール」が1割前後あるものの、どれも使っていない人が6割もあり、施設利用は大きく進んでいないと考えられる。
- ・ 市営スポーツ施設に対する評価は、「利用料金」、「開館時間」、「閉館時間」、「職員の対応」、「安全」といった点で評価が高く、一方、評価が低い項目は「不足している」、「利用手続きが面倒」、「交通アクセス」があげられる。前回調査と比較すると、全体的に評価は良くなっている。
- ・ 学校施設の開放について、知っている人が約4割、地域まちづくりセンター等の利用については、知っている人が6割強で、いずれも前回調査よりも減少。
- ・ 市の財源が不足した場合のスポーツ施設の扱いについて、「統廃合し、財政状況に見合った施設量にする」が6割、増税等で対応することを考える人は少数である。

#### 4 地域でのスポーツ活動やスポーツイベントについて（問 29～問 34）

- ・市内で開催されるスポーツイベントで、参加率が高いのは「市民体育大会」で、それ以外で認知度が高いのは、「歩こう会」「スポーツ協会の子ども向け教室」等。参加したいイベントは、「誰でも気軽に参加できるスポーツイベント」、「健康づくりのための講座」、「体力測定やスポーツテスト」で、「健康」、「気軽」なイメージをもつスポーツイベントに対するニーズが高い。
- ・総合型地域スポーツクラブについて、知っている人は16%程度で、前回調査の結果と大きな変化はなく、周知があまり進んでいないと考えらる。
- ・令和6年開催予定の国スポ・障スポについて、約半数が知っているという回答。観戦意向を持つ人も5割近くとなっている。

#### 5 スポーツ観戦、スポーツ支援活動について（問 35～問 38）

- ・過去1年間にスポーツ観戦した人は3割で、観戦したことがない人でも、今後の観戦意向を持つ人が7割近くいる。
- ・過去1年間にボランティア活動をしたことがある人は、5.5%と少ないが、今後、機会があれば行いたいと思っている人も2割を超えている。

#### 6 障害者スポーツについて（問 39）

- ・障害者スポーツについて、見たことも・関わったこともない人が半数を占めるものの、「テレビやラジオ、新聞などで間接的に見たり聞いたりしたことがある」人も半数近くを占める。

#### 7 草津市の運動・スポーツの取組について（問 40）

- ・全ての取組で、重要だと考えられている一方、全体的に満足度は低い。
- ・比較的満足度が低く、重要度が高い取組として、「子どもの体力向上とスポーツ活動の推進」、「スポーツ環境の充実」が挙げられ、今後の重点的な取組が求められる。

#### 8 スポーツに関する情報について（問 41）

- ・スポーツに関する情報を望む人は7割を超え、前回調査との比較でも10ポイント以上増加している。しかし、「入手できていない」が5割、「入手できているが不十分」が2割を占め、情報が行き届いていないと感じている人が多いことが伺える。
- ・入手したいは、「気軽に参加できるイベント」、「手軽にできる運動・健康づくり情報」、「講座や教室案内」、「施設案内」が多い。
- ・情報が入手しやすい方法として、「県市町の広報紙」が6割近くと多いが、10～20歳代の若い層で「SNS」が5割を超える。

## (2) 小・中学生アンケート結果

### 1 休日の過ごし方(問2)

- ・小・中学生ともに「家でゆっくりしたいことをする」が8割前後を占める。「クラブ【部】活動に行く」について、小学生は2割に満たないが、中学生は6割を超えており、「スポーツや運動をする(スポーツ少年団【クラブチーム】等)」は、小学生が3割弱、中学生は2割弱である。

### 2 毎日の睡眠時間(問3)

- ・小学生は「8時間以上」が6割、中学生は「6時間以上8時間未満」が7割を占める。前回調査と比較しても大きな差は見られない。

### 3 スポーツ・運動の好き嫌い(問4～問6)

- ・スポーツや運動をすることについて、小学生、中学生ともに「とても好き」「どちらかというが好き」を合わせた回答が8割前後と高い。
- ・スポーツや運動を見ることについては、小学生、中学生ともに「とても好き」「どちらかというが好き」を合わせた回答が7割を超える。
- ・スポーツへの好きな関わり方について、小学生では「特にない」が最も高いが、「チームや選手を応援するのが好き」、「スポーツや運動の雰囲気が好き」はともに3割近くを占める。中学生では、「チームや選手を応援するのが好き」、「スポーツや運動の雰囲気が好き」がともに4割を占める。

### 4 スポーツ・運動の実施状況(問7～問14)

- ・学校の休み時間のスポーツの実施について、小学生は「よくする」「時々する」がともに3割前後であるのに対し、中学生は「よくする」7.0%、「時々する」17.5%である。
- ・学校の休み時間や体育の授業以外でのスポーツや運動について、小学生は「週に1～2回」が3割と最も多い。中学生は「ほぼ毎日している」が最も多く3割を超えるが、前回調査と比較すると30ポイント近く減少している。
- ・スポーツや運動をする方法として、小学生は「習いごと」が5割近く、中学生は「学校のクラブ【部】活動」が7割を占める。また、小学生、中学生ともに4割を超える人が「友達や仲間と自由に」スポーツ・運動を行っている。
- ・スポーツや運動をする理由として、「スポーツ・運動が楽しい(好き)」「うまくなりたい」がともに、小学生では5割以上、中学生では7割近くを占めている。小学生については、前回調査と比べて、「スポーツ・運動が楽しい(好き)」「うまくなりたい」「健康のため」がそれぞれ30ポイント前後増加している。
- ・スポーツや運動をはじめたきっかけとして、小学生、中学生ともに「自分からすすんで」が最も多く、「家族からすすめられた・家族がやっていた」が続いている。
- ・スポーツや運動をやっていて直してほしいこととして、小学生、中学生ともに「上手くなるコツ(ポイント)を教してほしい【もっと技術を教してほしい】」「活動時間を

長くしてほしい」「活動回数を増やしてほしい」「楽しくしたい」が上位を占め、向上心が窺える一方で、前提としての楽しむことについても求められている。

- ・今やっているスポーツについて、小学生、中学生ともに「ずっと続けたい」「続けたいがちがうスポーツもしてみたい」を合わせた続けたい人の割合が7割を超える。
- ・スポーツや運動をしていない理由としては、小学生、中学生ともに「体を動かすのが好きではない」「家で遊ぶのが好き」「スポーツがうまくできない」が上位を占める。
- ・今やっているスポーツは、小学生では「水泳」「サッカー」「バドミントン」、中学生では「サッカー」「陸上」「卓球」が上位3項目を占める。
- ・好きなスポーツは、小学生では「バドミントン」「サッカー」「水泳」、中学生では「バドミントン」「サッカー」「バスケットボール」が上位3項目を占める。
- ・これからやってみたいスポーツは、小学生では「テニス」「バスケットボール」「卓球」、中学生では「バドミントン」「テニス」「バスケットボール」が上位3項目を占める。

## **5 国民スポーツ大会について（問 15～問 16）**

- ・開催されることについて、小学生は8割以上、中学生は7割近くが「知らない」と回答。
- ・大会との関わりについて、小学生は「何もしたくない」が最も多いが、「大会を見に行きたい」が3割、「選手として出場したい」が2割を超えている。中学生は「大会を見に行きたい」が最も多く4割を超えており、「選手として出場したい」が2割近い。

## **6 総合型地域スポーツクラブについて（問 17～問 18）**

- ・小学生、中学生ともに「知らない」が最も多く、小学生は6割、中学生は5割を超える。
- ・加入意向について、小学生は「誰かと一緒なら入ってみたい」が最も多く4割を超えており、中学生は「入りたくない」が最も多く4割を超える一方で、次ぐ「誰かと一緒なら入ってみたい」は3割を超える。

### 3. 団体アンケート結果

#### ①競技団体

- ・運営・活動上の問題点として、7割が「活動者が増えない」と回答し、前回調査と比べて18ポイント増加。ほかに、「指導者の後継者がいない」、「指導者が少ない」、「練習に利用できる施設が少ない」といった意見も半数近くを占める。今後の活動についても、8割が「活動者を増やしたい」と回答し、活動者不足が大きな問題となっていることがわかる。
- ・行政に望む支援として、「練習や大会に使用する場所の充実」55%、「補助金の充実」や「練習や大会に使用する場所の設備の充実」も半数近くを占める。前回調査と比較すると、「スタッフやボランティアの育成・確保」が16.0ポイント増加。
- ・活動施設については、5割が「利用料金の改定」を望んでおり、前回より17ポイント増加。「施設の付属器具や用具の改善・拡充」「利用施設の改修」「更衣室・駐車場等の付帯設備の改善・拡充」を望む声も少なくない。
- ・国スポ・障スポへは、7割が取組意向を示しており、具体の参加方法は、「開催期間中の運営補助」が6割、「競技への選手の派遣」が4割弱。
- ・新型コロナウイルス感染症については、大会や練習の中止など、9割が影響が出ていると回答。

#### ②小学校体育連盟、中学校体育連盟

- ・小学校では、約半数の生徒がスポーツ系クラブに加入し、サッカー、バスケットボール、卓球、陸上競技、バトミントン等の種目が主に行われている。合体し複数の種目を行っているクラブもみられる。
- ・中学校では、スポーツ系クラブの加入者が7割を占め、軟式野球、バレーボール、バスケットボール、卓球、サッカーは全ての学校でクラブ活動が行われており、加入している生徒は、卓球、ソフトテニス、陸上競技の順に多い。
- ・指導は教職員担い、講師や地域の人材など外部から招いて指導しているところもあるが、1割前後と少ない。
- ・活動場所が十分に確保できないことや、専門性の高い指導をできないといった点が課題としてあげられる。
- ・新型コロナウイルス感染症については、体育でできる活動の制限、子どもの体力低下など、小学校では9割、中学校ではすべての学校で影響が出ていると回答。

#### ③体育振興会連絡協議会

- ・参加者の少なさや、スタッフや役員等のなり手がいないことが課題となっている。
- ・今後力を入れていきたい取組としては、老若男女が気軽に楽しめるニュースポーツ等に取り組むことで、参加者を増やす取組をしていきたいとの声が多い。
- ・新型コロナウイルス感染症については、事業や活動の中止など、9割が影響が出ていると回答。

#### ④スポーツ少年団

- ・運営・活動上の問題点として、6割が「活動者が増えない」と回答し、ほかに、「指導者の後継者がいない」、「練習に利用できる施設が少ない」、「大会に使う施設が少ない」といった意見も3割前後を占める。今後の活動についても、7割が「活動者を増やしたい」と回答し、活動者不足が大きな問題となっていることがわかる。
- ・行政に望む支援として、「練習や大会に使用する場所の充実」と「練習や大会に使用する場所の設備の充実」が7割前後と多く、「補助金の充実」、「トップレベルの試合や人材にふれることができる機会の創出」も6割前後を占める。前回調査と比較すると、「トップレベルの試合や人材にふれることができる機会の創出」が19ポイント、「補助金の充実」が14ポイント増加。
- ・活動施設については、「施設の付属器具や用具の改善・拡充」が3割で、「利用料金の改修」「利用時間・利用枠の拡大」「予約方法や予約システムの改善」「更衣室・駐車場等の付帯設備の改善・拡充」を望む声も少なくない。
- ・行政に望む情報は、「スポーツ医療に関する情報」が半数を占め、「トレーニングに関する情報」が4割と続く。
- ・国スポ・障スポへ取組意向は4割で、具体の参加方法は、「開催期間中の運営補助」「開催期間中の応援サポーター」が多い。
- ・新型コロナウイルス感染症については、練習や大会の中心、子どもの体力低下、意欲の低下など、9割が影響が出ていると回答。

#### ⑤くさつ健・交クラブ

- ・市のスポーツ推進を牽引している3団体（市スポーツ協会・市体育振興会連絡協議会・市スポーツ推進委員協議会）をはじめ、関係団体とも連携しながら事業を展開している。
- ・運営スタッフの高齢化で、スクールやサークル運営の負担が大きくなってきている状況にあり、ボランティアの人材不足に陥っていることが課題となっている

#### ⑥スポーツ推進員

- ・「歩こう会」の取組やウォーキング、ニュースポーツ等の実施により、地域住民の健康増進に取り組んでいるが、参加者が高齢層に偏ったり、参加者の固定化、スタッフや役員等のなり手がいないことが課題となっている。
- ・今後力を入れていきたい取組としては、高齢化に対応した取組、他団体との連携により、参加者を増やす取組をしていきたいとの声が多い。
- ・新型コロナウイルス感染症については、活動やイベントの中止など、9割が影響が出ていると回答。